



保育園に就職して

理事 久野 順子



保育園の仕事を始めて、41年目に入りました。私が就職したころも、現在とは理由こそ違え、ずいぶんと人手不足でした。若い保育士は、一旦は私立の保育園に就職しても、公立園との格差が大きかったのか、公立に転職希望の方が今より多くみられました。また、結婚や妊娠を機に退社する職員も多かったように見受けられました。

そんな中、私は、無資格保母として、保育園に入職しました。四年制の大学を卒業し、夜間の短期大学に通いながら保育士の資格取得を目指しました。私の通っていた夜学には、中川原の工場から夜学に通う、昼はお勤め、夕方から学生という方々がおられました。みなさん、地方の高校を卒業したての方ばかりでしたので、当時の私からは、若くて、可愛らしくて、みんなで楽しそうだなあと感じられました。私自身、今よりもずっと若かったので、やたら、毎日が眠たかったのを鮮明に覚えています。授業を終え、帰宅してからの夕飯でしたが、よく箸を持ったまま船を漕いでいて、母に「しっかりしなさい」と叱られたものです。

朝は午前7時に出勤し、園庭に面した子ども達の出入り口を掃除してから、保育の補助に入りました。午後4時には保育園を退勤し、夜学に向かうという毎日でした。

実習先の幼稚園では、「夏休みになったらアルバイトに来るように」と言われ「保育園で働いているのでアルバイトは無理です」と断ることもありました。また、「クジャクの小屋の掃除を1人でやりなさい」と言われたのに、怖くてできなかったこともありました。炎天下に施設の子どもを連れ1時間近く歩いて市営プールに行き、帰り道、付き添いの先生と子どもたちとアイスを食べながら歩いたことも楽しい思い出です。施設のお昼寝では真っ暗なのをよいことに思わず眠ってしまったことも（先生が優しく起こしてくれました）ありました。お泊り保育に付き添い、声がかかるまで紙芝居を読み続けたことなどが、今では懐かしく思い出されます。

夜学の3年間を終え、無事、保母資格と幼稚園教諭免許を取得することができました。卒業式の日、とても嬉しくて、晴れがましい気分で出かけたのを昨日のように思い出します。これも、毎晩「しっかりご飯を食べなさい」と励ましてくれた家族のおかげと、心から感謝しています。

今回、東京都民間保育園協会の「路」の原稿依頼を受け、改めて保育の仕事についての自分を振り返る時間をいただけたことを大変ありがたく受け止め、この原稿を書いています。

現在、また大きな保育の改革が実行されている中で、慢性的な保育士不足、保育の質の低下、子どもが育つ環境の変化などをしっかり捉え、保育の充実を図っていかなければならないと、痛感しております。ただ、平成30年に新しく施行された保育指針の遵守と子ども達の最善の利益の真の意味だけは見失わず、活気に満ちた子どもの愛らしい声と職員の笑顔があふれる保育園を作っていきたいと思いながらの毎日です。保育園という場所で、子ども達、保護者、職員皆がしっかり手をつなぎ、お互いの成長の場として輝き続けてほしいと祈るような気持ちです。